

# 「リアルなアニメに」

制作参加 富永さん（結城）が見どころ

## 28日公開 映画「ブッダ」

巨匠・手塚治虫の漫画「ブッダ」が、構想から10年をかけてアニメ映画化され、28日から全国ロードショーされる。この作品は3部作の第1弾「手塚治虫のブッダ―赤い砂漠よ！美しく―。サブプロデューサーとして制作に参加している結城市出身の富永理生子さんに映画作りの醍醐味や見どころを聞いた。



サブプロデューサーを務める富永理生子さん

楽しめる実写に近いリアルなアニメを目指した」と語り、声優には吉永小百合さんや、堺雅人さん、観世清和さん、吉岡秀隆さんらそうそうたる俳優陣起用。主題歌もX-JAPANがオリジナルを書き下ろした。

アニメ映画の魅力について富永さんは「想像でストーリーを書いていく自由さがある。登場人物についても想像の世界の中でスターをつくる面白さがある。『ブッダ』の第2部は2年後に完成を予定。第3部もその2年後を計画している」と話している。

上映に合わせて東京・国立博物館で6月26日まで、仏像と手塚治虫の原画による「手塚治虫のブッダ展」を開催中。

（高橋正樹）

000万部を発行した大作。映画では2500年前のインドを舞台に、シャカ国の王子として生まれ、階級制度に疑問を持って仏教を

開いたブッダことシツタールタの青春時代を描いている。「手塚治虫という天才の遺産。ブッダはもちろん、ブッダを取り

富永さんは慶応大卒業後、フィルムリンクインターナショナルを経てフリーとなり、現在東映のプロデューサーとして活躍。「モーニング娘。」を起用して、ひたちなか市の国営ひたち海浜公園で撮影した「ピンチランナー」やアニメと実写のコラボレーションによる「デビルマン」、阿木耀子監督の「TANKA短歌」などをプロデュースしてきた。

漫画「ブッダ」は1972年から83年まで雑誌に連載され、コミックになってからは2